



発行元：民主党プレス民主編集部

東京都千代田区永田町1-11-1

TEL：03-3595-9988（代表）

連絡先：民主党静岡県参議院選挙区第3総支部

静岡市駿河区南町10-6 村上駅南ビル703

TEL：054-280-7604 FAX：054-285-7993

2005年11月号

号外



参議院議員

藤本祐司

税金の無駄使い、特別会計に切り込む

9月21日から始まった42日間の特別国会は、11月1日に閉会した。来年1月20日ごろ招集されるであろう通常国会までは、国会は開かれない可能性は極めて高い。と言っても閉会中に審査するケース（閉会中審査）や様々な視察や良好な外交関係を維持するために国内外各地を訪問することも多々ある。私も岡田克也前代表に同行し11月中旬に5日間、中国（北京、瀋陽など）を訪問し、政府関係者等との意見交換を行う予定である。

さて、わが民主党も9.11ショックから立ち直りつつあり、政治・行政・財政等の様々な改革に着手している。以前、小泉総理も言っていたように、改革には痛みを伴う。しかし、その改革を断行しなければ、自分たちが気づかないうちに、時代に取り残されてしまう。

改革を進めようと思う気持ちは、民主党も自民党も同じだと思う。与党と野党の政策が逆方向を向いていた30年前とは異なり、政策の方向性は大きくは隔たっていない。ただ、政策の中身に微妙な違いがあることは現実であり、なにより政策遂行の優先順位が異なっているのである。

自民党は郵政民営化が最も重要と考えたが、**民主党は社会保障制度改革と税金の無駄使いを改革することが先だ**と考えた。そこが大きく異なるのだが、9.11の総選挙では訴えは届かなかった。自民党は、国と地方の1,000兆円にもものぼる借金の返済に対しては歳出削減では無理という理由をつけて増税を優先しようとしている。民主党も歳出削減だけでは無理だということは承知のうえで、増税の前に徹底的な歳出削減を検討すべきと主張している。

民主党は、総額年80兆円超の一般会計予算だけでなく、総額で約400兆円の特別会計（重複分を含む）にメスを入れる調査会を立ち上げた。私もそのメンバーとして参加し、総務関係の特別会計を担当することになった。総務関係の特別会計は、地方交付税と譲与税配付金である。官僚の中でも特に優秀と言われる旧自治省の方々と互って戦うためには、閉会中といえども一所懸命勉強しなければならない。**国民の皆様様の税金が無駄に使われることなく、正していくために全力を尽くすつもりである。**



10月18日 総務委員会にて

野党である民主党が頑張らなくては、日本の政治は良くならない。自民党に「うかうかしてられないぞ」と思わせることが、我々民主党に求められている。ことさらに対案を出すことだけにこだわるのではなく（重要法案には可能な限り対案を提示すべきではある）、**政府・与党をチェックすることこそが、野党の大きな役割である。そして、我々が政府・与党を厳しくチェックすることが政治に緊張感をもたらし、あわせて二大政党が切磋琢磨する政治が実現できることこそが、政権交代の大きな目的なのである。**

～国会事務所からの便い～

怒濤の4回連続質問！！

今国会の後半は、10月14、18、20、25日と4回連続質問に立ちました。それぞれテーマが全く異なりましたが、どれも大切なテーマを扱うことになり、準備のためやや多忙の10日間だった。



10月25日 総務委員会にて

1回目(10月14日):郵政民営化特別委員会

総選挙前に行った3回の質問と通算して4回目の郵政民営化に関する質問。日本郵政公社が新規事業として乗り出そうとしている国際物流の現状と今後の見通しについて質問した。残念ながら政府の郵政民営化法案が成立してしまい、郵政3事業は大きく変わる。今後は、国民が不利益を被らないよう郵政民営化の過程をしっかりとチェックしなければならない。

2回目(10月18日):総務委員会(郵便法の一部改正、人事院勧告等について)

久しぶりの総務委員会での質問。今年の人事院勧告は、国家公務員の給与のあり方を抜本的に変えるような内容。能力給・実績給的な性格を強めることになる。そこで、能力・実績を給与に反映させるための基礎となる評価制度について質問した。政府は来年1月から新しい評価制度を試すとのこと。

3回目(10月20日):総務委員会(NHK 決算・新生プランについて TV 放映)

NHKの決算と先月NHKが発表した新生プランについての質問。審議の様子は当日の深夜にNHKで放映された。うやむやになったままの海老沢前会長の退職金等の扱いや、不払いや支払い拒否が127万件にも及んでいる受信料の問題など、NHKが抱える様々な問題を質した。不祥事があったとはいえ、NHKは報道の質・正確性などの面でまだまだ国民からの信頼が厚い面も持っている。膿を出し切り、早急に立ち直っていただきたい。

4回目(10月25日):総務委員会(放送局の外資規制について)

テーマは放送局の外資規制。例のホリエモン騒動をきっかけにして、民放と自民党が総務省を急かし、急遽準備された法案。外資規制を行う理由や外資規制の抜け道について質問を行った。この法律で外資規制を本当に防げるかどうかは、この法律の成立後作成される総務省令の規定次第。



(静岡県連事務所での座談会の風景)

「座談会を開催してください」

政治家の役割は、法律を作ることです。そして、もうひとつ大切な役割は、国会での活動を皆さんにお伝えし、皆さんの声を直接お聞きすることです。そのためには、大きな会場で国政報告会を開催することは1つの方法ですが、もっと身近に意見交換ができる小規模な座談会も重要な方法です。

人数、規模は問いませんので、お気軽に申し出てください。お待ちしております。

当事務所までご連絡ください。